



今、がんは
とても身近な
病気です

がん検診を定期的 に受けましょう!

問合せ
保健福祉課 ☎47-8007

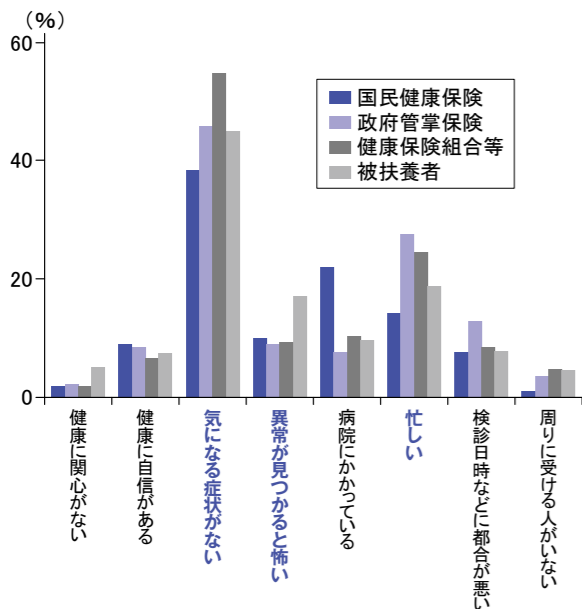
日本人のおよそ
2人に1人ががん
になるといわれています

皆さん、こんにちは! 3月号では、健康診査についてお伝えしましたが、今回は、がん検診についていっしょに考えていきましょう。

がんは、昭和56年以来、日本人の死亡原因の第1位で、平成20年には男性は4人に1人、女性は6人に1人が、がんで死亡し、男性は2人に1人、女性は3人に1人が一生のうちに何らかのがんと診断されると推計され

がん検診を受ける人が少ないです。受けない理由は『気になる症状がない』から…そこが危険です!!

グラフ① がん検診を受けない理由



グラフ①は、平成18年度に皆さんに行ったアンケート結果です。

Q. がん検診を受けない理由で最も多いのは『気になる症状がない』となっていますが、一般に「がんは、症状がある段階では、だいぶ進行している」と聞きます。実際はどうなのでしょう?

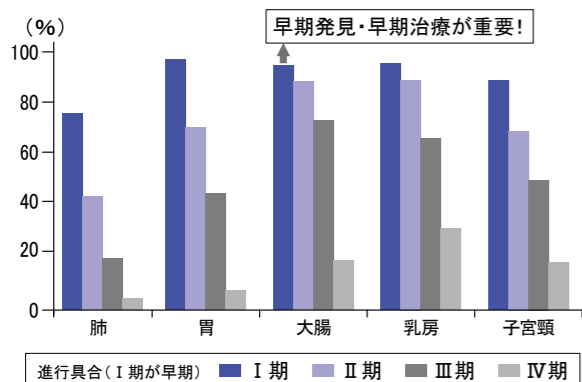
A. 早期のがんには症状はなく、例えば大腸がんの場合、やせる、腹痛や便秘がひどいなどの症状は、とても進行した場合にみられます。症状がないから安心とは言えません。

Q. がん検診を受けない理由に『異常が見つかるのが怖い』と答えた方が2割程度います。確かに、見つかった時のショックは大きいと思いますが、それでも早く見つかることが、どのくらい私たちにとって良いことなのでしょう?

A. グラフ②を見てください。早い時期にがんが見つければ、ほぼ100%治すことができますが、他の臓器に転移していると治る確率は極めて低くなります。がんは早く見つけなければ治すことができませんし、逆に早く見つけることができれば体に負担のない治療法でがんを治すことができます。

症状がないまま進行するがんを早期に発見するには、定期的ながん検診を受けることが重要です。これまでがん検診を受けたことがなかった人も、今年ががん検診を受けましょう。

グラフ② がんの治療開始から5年後の生存者の割合



肺がん検診を受けましょう!

肺がんは、男女とも死亡率が30年前に比べて5~6倍に急増しています。肺がんは、進行しなければ症状が出てこないことが多く、治る可能性の高い肺がんを発見するには、定期的に検診を受ける必要があります。また、たばこを吸っている方や血痰の出る方は、喀痰検査も受けましょう。

精密検査が必要となった場合は、必ず医療機関で受診してください。



ています。しかし、診断と治療のめざましい進歩により、定期的ながん検診を受けて、早期発見・早期治療を行えば、完治することが困難でない病気と言えるようになってきました。

胃がん検診を受けましょう!

胃がんは、減少傾向にありますが、まだまだ気をつけなければならないがんです。特に50歳以上の方や今まで一度も検診を受けたことがない方は、検診を受けることで他の方より3~10倍以上の高い確率で胃がんが発見される可能性があります。年に一度は検診を受け、早期に発見しましょう。



検診は、胃のX線写真を2人の専門医がチェックします。精密検査が必要な方には、通知が届きますので、医療機関で胃カメラの検査を受けてください。

大腸がん検診を受けましょう!

食生活の欧米化により大腸がんによる死亡者数は、この30年間で男性は約5倍、女性は約4倍増加しています。また、大腸がんが発見される年齢は、50歳以上が多くなっています。早期に大腸がんを発見するためにも、毎年検診を受けましょう。

腹痛や肛門出血などの症状があった場合は、必ずかかりつけの医師に相談してください。また、便に血が混じる原因は、大腸がん、大腸ポリープなどが考えられますので、必ず便潜血検査ではなく、内視鏡検査を受けてください。

精密検査で、大腸がんと診断されても、84%程度の方が治ります。そして、ほぼ3人に1人は開腹手術をせずに内視鏡手術で治ります。

婦人がん検診を受けましょう!

乳がん

乳がんは、ここ20年で発生率が2.7倍に急増しています。特に壮年女性に限れば、がん死亡原因の1位です。

他のがんは、高齢になるほどわかりやすいのに比べ、乳がんは40歳代で最も多く発症しています。早期のうちに乳がんを発見できれば、90%以上完治できます。そして、負担の少ない小さな手術で、乳房を失うことなく治療できます。

乳がん検診の切り札—マンモグラフィ

乳房のレントゲン検査です。手で触ってもわからない小さな乳がんや乳がん特有の細胞の変化を映し出せることから、乳がんの早期発見に威力を発揮する検査です。町の検診では、40歳以上の方を対象に検診を行っています。乳がんの早期発見のために、2年に1回はマンモグラフィ検査を受けましょう。



子宮がん

子宮がんには、子宮の入り口にできる「子宮頸がん」と奥にできる「子宮体がん」があります。子宮頸がんは、集団検診等の普及により発見率が向上してきましたが、早期子宮頸がんまでの状態では、不正性器出血などの自覚症状はまったくありません。初期の段階のがんを発見するには、検診を定期的に行うことが重要です。子宮体がんは、欧米諸国に比べて発生率は低かったのですが、近年、肥満・糖尿病・高血圧等にかかっている人が増加したことに伴い、増えてきています。閉経後に不正出血のあった方、妊娠歴のない方、月経不順であった方には、医療機関での受診をお勧めします。

がん検診こそが、がんの死亡率を減少させることができる確実な方法です。わたしたちにできること…それは、早期発見!早期治療!個人で受けるよりも格安で受診できます。がん検診を受けましょう!!

11ページのアンケート結果から『忙しい』という理由でがん検診を受けていない方も多くいます。

町では、都合のよい時間に病院で各種がん検診を受診できる、個別検診をはじめとしています。集団検診の日時には都合がつかないという方、医療機関に予約して自分の都合に合わせて検診を受けることができます。ぜひ、集団検診とあわせて個別検診も積極的に活用してください。

